

## 「私の住みたい街」

「あなたはどんな街に住みたいですか？」

という問いかけに対し、まず頭に浮かんだのは「安全で安心して生活できる街」である。友人、知人が犯罪に巻き込まれたという話は珍しくない。またその逆に、身近な人が加害者であったという話は、ニュース、新聞を見ていれば毎日のように報道されており、「またか」と残念な気持ちにさせられることが多々ある。そんな日常からとっさに頭に浮かんできたんだと思われる。

そこで「安全で安心して生活できる街」とはどういうものか、具体的に 2 点挙げてみた。

1. 犯罪のない街
2. 事故のない街

以上の 2 点が満たされていれば、女性が夜一人で出歩くことを躊躇することはないだろう。しかし、この 2 点は、自分で注意した行動をとれば、完全では無いが、ある程度は防ぐことができる。犯罪や事故をゼロにするのは不可能に近いので、自己防衛することで事件、事故を未然に防ぐことが重要になると考えられる。

自己防衛を意識して事件、事故の無い街になれば今より住み良い街になりそうだ。しかし、これだけで果たして安全に安心して生活できるだろうか。そこで、さらに突き詰めて考えてみた。するともう一点、連日何かしら報道されている話題があった。それは、環境問題である。今子育てをしている親が、将来の自然環境を思い、子供の将来に不安を覚えることは当然であろう。今の自然環境を子孫に胸をはって引き継ぐことは出来ないだろう。

こういった未来への不安を解消することが「安全で安心して生活できる街」に繋がって行き、誰もが住みたい魅力的な街になるのではないだろうか。

では、将来の自然環境への不安をどう解消していけば良いのだろうか。

10 年ほど前に東京で開かれたモーターショーのことを思い出した。日本車のメーカー各社は、車のスピードや馬力、デザインを重視した車を数々出展していた。しかし、欧州のメーカーはスピード、馬力を軽視していた。これに私は驚いた。何に重点を置いて開発していたかという点、「いかにリサイクルしやすく、解体し易い車であるか」である。欧州の国々は、リサイクル活動を進める中で、将来の環境への不安を解消しようとしたのではないだろうか。また、この時点での私や、日本人の環境に対する意識の低さと出遅れが伺える。

最近の話題で言うと、「レジ袋税」というものがある。スーパーやコンビニで使われるレジ袋に税金を加算使用というものだ。レジ袋は無料であると当然のように思っていた。この「レジ袋税」に対して事情はいろいろあれど、反対している企業が多々あるらしい。レジ袋の使用量の削減により、石油使用量の削減につながり、CO2の削減となる。このことは誰しも理解出来ることである。しかし、袋があれば便利であり、出来れば無料で続けて欲しいというのが私の本音でもある。

税金や法律で拘束していくやり方はあまり好ましいやり方とは言えないが、日本人は環境保全に対して、世界と比較すると意識が低いように思える。そのため、自分自身が環境破壊に加担していることを意識させるようなやり方も必要なのではないだろうか。

たとえば、先程も例に出した車はどうだろうか。大きなディーゼル車で、一人乗って通勤している光景を良く見かける。公共の交通機関を利用することで石油燃料問題とCO2問題、さらにNOx、SOx問題まで、個人レベルではあるが、解消することができる。そのためには、公共交通機関の充実が求められることになるが、福岡の都市圏で考えると十分ではないだろうか。地下鉄3号線も開通し、天神、博多圏内は100円バスが走っている。格安で乗車し易い。自家用車で通勤する理由がどこにあるだろうか。

こういった取り組みを都市圏外でも行なっていってはどうか。格安であり、環境に配慮しているとなれば利用者も現在より増加が見込めるだろう。しかし、郊外ならば採算が取れないことが想定される。あとは官公庁の力が必要である。排気量の大小はあれど、車が温室効果ガスを排出していることは間違いない事実である。リサイクル料は今年より徴収されるようになったが、環境破壊に対してもっと意識してもらうために、車両に環境税も課税してよいのではないだろうか。環境対策として公共交通機関に税金を投入することは将来を考えると有意義である。温室効果ガスを排出する車両から税金を徴収し、公共交通機関に投入していくことで、採算の問題を解消しつつ、車両の絶対量を減少させられないだろうか。

自販機やコンビニはどうだろう。街中ならば、玄関を出ただけで数台の自販機が目に入る。百メートルほど行けばコンビニが存在する。これだけの数が必要なのか疑問である。確かに、あると便利であり、深夜でも開いているから利用するが、深夜に「今すぐこれが無いとダメだ」とコンビニに走っていったことは、記憶の限りで私は無い。自販機が今の半分の台数になっても、コンビニが深夜閉まっても、それほど不便ではないだろう。何か飲みたければ水道をひねればいいし、お腹がすいたならば朝まで我慢すればいい。強制的に数と営業時間を縮減して、消費電力の削減は出来ないだろうか。

子供たちの将来のことを思えば、多少の不便さは受け入れられるだろう。また、不便さを体感することにより、環境保全に取り組んでいることを実感し、将来への不安も解消されていくだろう。

環境破壊は、便利さを追求してきた各個人に重大な責任がある。特に家電大国、車社会の日本人ならばその責任は大きい。レジ袋は使用しない。車は所有しない。夜は寝る。日が昇れば仕事に行く。夜は電力を使用しない。というぐらいの意識を各個人が持つことができれば、環境破壊を減らすことが出来る。口で言うのは容易だが、実践となると私自身かなりの覚悟を必要としそうだ。一人では正直無理かもしれない。しかし、同じ意識を持って、同じ目標を持っている人が集まり、協力して行けるならば実践できるだろう。多少不便なことがあっても皆で笑い飛ばせるだろう。一見すると薄暗くて活気の無い街に見えるかもしれない。しかし、子供たちの未来は明るいはずだ。

このように、我々や、我々の先祖の付けを未来にまわさないよう、未来を見据えた行動を個人レベルで意識し、地域住民や、官公庁が一体となって環境保全に取り組み、子孫に胸を張って引き継いでいける社会こそが、私が描く「安全で安心して生活できる街」であり、「住みたい街」である。

最後に、このような街が、官公庁からの強制ではなく、地域住民や、一般企業からの発案で実現していくことを私は望む。